

問1 ある地域の浸水想定区域や土砂災害の危険箇所、避難場所などが色分けして示された資料を活用する主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 福井公立入試 類似)

1. 住民が居住地域の災害リスクを事前に把握し、避難行動や備えに役立てるため
2. 土地の正確な標高や傾斜を測定し、大規模な公共施設の建設費を算出するため
3. 観光客が効率よく地域の景勝地を巡ることができるよう、最短経路を周知するため
4. 過去の土地利用の変遷を記録し、歴史的な街並みを保存する計画を立てるため

問2 大分県別府市の境川河口付近において、昭和五十年代と平成二十五年の二枚の二万五千分の一地形図を比較した際に読み取ることができる、都市開発に伴う人工的な景観の変化として正しいものはどれですか。 (2021年 京都公立入試 類似)

1. 河口付近が直線的に埋め立てられ、海上に新たな橋が建設された
2. 食料不足を解消するために、沿岸部の埋め立て地に広大な田畑が作られた
3. 防災機能を強化するため、河口付近の住宅地を撤去して警察署や消防署が設置された
4. 自然環境を復元するために、既存の橋を撤去して河口を昭和以前の形状に戻した

問3 三陸海岸の南部に見られる、複雑に入り組んだ狭い湾や入り江が連続する地形の特徴を活かした取り組みとして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)

1. 波が静かな入り江の性質を利用して、カキやワカメの養殖を行う。
2. 広大で平坦な砂浜の性質を利用して、大規模な海水浴場を整備する。
3. 遠浅の海岸を埋め立てて、大規模な臨海工業地帯を建設する。
4. 海岸線を直線的に整備し、大型のタンカーが接岸しやすい港を作る。

問4 縮尺2万5千分の1の地形図を用いて地域の広さを算出する場合、地図上の1cm四方(1cm×1cm)の正方形が示す実際の面積として正しい数値はどれですか。 (2024年 千葉県公立入試 類似)

1. 0.0625平方キロメートル
2. 0.25平方キロメートル
3. 0.625平方キロメートル
4. 1.5平方キロメートル

問5 日本列島の東側に位置する太平洋上では、北から流れてくる千島海流(親潮)と、南から流れてくる日本海流(黒潮)がぶつかり合っています。この海域が「潮目(潮境)」と呼ばれ、世界的な好漁場となっている理由として適切な説明を選びなさい。 (2020年 新潟県公立入試 類似)

1. 寒流と暖流が混ざり合うことでプランクトンが豊富になり、それらを餌とする両海流の魚が集まるため
2. 寒流が運んでくる流水が、魚の隠れ家や産卵場所として最適な環境を形成するため
3. 暖流の熱によって海水の蒸発が盛んになり、海中の塩分濃度が魚の成長に適した水準まで高まるため
4. 海流がぶつかる衝撃によって海底の栄養分が地表近くまで巻き上げられ、水温が急激に上昇するため

問6 川が海や湖に流れ込む手前の河口付近において、川の流れが緩やかになることで運搬されてきた土砂が底にたまり、川がいくつかの筋に枝分かれして形成された、三角形に近い形の平坦な地形を何といいますか。 (2023年 和歌山公立入試 類似)

1. 三角州
2. 扇状地
3. 台地
4. 砂丘

問7 山梨県の甲府盆地などに見られる、川が山間部から平地へ出るところに土砂が堆積してできた扇形の地形について、その名称と一般的な土地利用の組み合わせとして適切なものを選択してください。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 扇状地と呼ばれ、水はけのよさを活かしてブドウや桃などの果樹園に利用される。
2. 三角州と呼ばれ、水もちのよさを活かして稲作を行う水田に利用される。
3. 台地と呼ばれ、平坦な地形を活かして大規模な小麦の畑作に利用される。
4. カルスト地形と呼ばれ、特殊な土壌を活かして茶の栽培に利用される。

問8 景観を保護する取り組みについて述べた次の説明のうち、多くの自治体で採用されている「景観条例」の具体的な内容として最も適切なものはどれですか。 (2017年 静岡公立入試 類似)

1. 歴史的な街並みに合わせて、コンビニエンスストアなどの看板の色を地味なものにするよう制限する。
2. 古い建物をすべて取り壊し、江戸時代の街並みを完全に再現した新しい建物を建てるよう義務づける。
3. 観光客を増やすために、街のどこからでも目立つような高層ビルを建設することを推奨する。
4. 全国一律の基準に基づき、すべての都市で同じデザインの住宅を建てるように規制する。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 住民が居住地域の災害リスクを事前に把握し、避難行動や備えに役立てるため	被害想定区域などが示された地図（ハザードマップ）は、平常時から自分の住む場所にどのような危険があるかを確認し、いざという時の避難先や経路を家族で話し合っておくために利用されます。これにより、災害発生時のパニックを防ぎ、迅速な避難につなげることが最大の目的です。地形図や土地利用図とは異なり、防災に特化した情報が盛り込まれています。
問2	<b>答え 1</b> 河口付近が直線的に埋め立てられ、海上に新たな橋が建設された	都市の発展に伴い、限られた平地を拡張するために沿岸部の埋め立てが行われることがあります。大分県別府市の事例では、昭和五十年代には自然な形状で海に開かれていた河口が、平成二十五年までには直線的に埋め立てられ、さらにその海上に新しい橋が建設されるなど、交通網の整備と土地利用の高度化が同時に進んだことを地形図から読み取ることができます。
問3	<b>答え 1</b> 波が静かな入り江の性質を利用して、カキやワカメの養殖を行う。	複雑に入り組んだ湾内は、外海からの荒波の影響を受けにくく、一年を通じて波が穏やかであるという特徴があります。この利点を活かして、三陸海岸では古くからカキ、ワカメ、ホタテなどの養殖業が盛んに行われてきました。一方で、こうした地形は津波が発生した際に湾の奥ほど波が高くなり、被害が拡大しやすいという側面も併せ持っています。
問4	<b>答え 1</b> 0.0625平方キロメートル	2万5千分の1の地形図において、地図上の長さ1cmは実際の距離で25,000cm、すなわち250mに相当します。面積を求める際は、この一辺の長さを2乗する必要があるため、実際の面積は $250\text{m} \times 250\text{m} = 62,500\text{平方メートル}$ となります。1平方キロメートルは1,000,000平方メートルであるため、単位を換算すると0.0625平方キロメートルが導き出されます。
問5	<b>答え 1</b> 寒流と暖流が混ざり合うことでプランクトンが豊富になり、それらを餌とする両海流の魚が集まるため	寒流である千島海流（親潮）と暖流である日本海流（黒潮）がぶつかる潮目では、海水が攪拌（かくはん）されることで栄養分が浮上し、プランクトンが大量に発生します。そのため、寒流を好む魚（サケ・サンマなど）と暖流を好む魚（カツオ・マグロなど）の両方が集まる豊かな漁場となります。
問6	<b>答え 1</b> 三角州	河口付近では川の流れが弱まるため、上流から運ばれてきた土砂が堆積しやすくなります。このようにして形成された低く平坦な土地を三角州（デルタ）と呼びます。水はけはあまり良くありませんが、水利が良いことから水田や都市として利用されることが多くあります。
問7	<b>答え 1</b> 扇状地と呼ばれ、水はけのよさを活かしてブドウや桃などの果樹園に利用される。	扇状地は、川が山地から平地へと流れ出る谷口に、運ばれてきた砂やれき（砂利）が堆積して形成される扇形の地形です。特に中央部は砂利が多く、水が地下へ浸透しやすい「水はけがよい」という特性があるため、水分を多く必要とする水田には向かず、果樹園として広く利用されています。
問8	<b>答え 1</b> 歴史的な街並みに合わせて、コンビニエンスストアなどの看板の色を地味なものにするよう制限する。	景観条例は、その地域らしい街並みを維持することが目的です。例えば、京都府や奈良県などの歴史的都市では、企業のロゴマークや看板に本来使われる赤や青といった派手な色を抑え、茶色や白などの落ち着いた色に変更させることで、歴史的な風景との調和を図っています。建物の高さ制限を設けて、山並みや寺社が見えるようにする工夫もその一環です。